

熊本県立八代工業高等学校(定時制) 令和3年度(2021年度) 学校評価計画表

1 学校教育目標
(1) 基礎学力と基本的な生活習慣の充実・定着 (2) 地域に信頼され、愛され、必要とされる学校づくり (3) キャリア教育の推進と自己実現 (4) 常により良いものへと向かう姿勢の育成

2 本年度の重点目標
本校の校訓「誠実」を基柱とし、熊本県教育庁の令和3年度(2021年度)「教育指導の重点」並びに「取組の方向」に則り、家庭、地域、学校が連携し、生徒の「夢実現」と「生きる力の育成」に向けた教育活動を推進する。 (1) 基本的な生活習慣の確立と豊かな人間形成の醸成 (2) 基礎・基本を重視した学力の定着と向上 (3) キャリア教育の充実と自己実現 (4) 安全教育・健康教育、危機管理の充実 (5) 校務整理と業務改善

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	「働きながら学べる学校」の推進	・ 多様な生徒の実態に即した指導	・ きめ細かな生徒の実態把握と個別指導の充実	・ 毎月の生徒情報交換会 ・ 生徒面談の重視と、状況に応じた各教育機関との連携による対応	A	・ 毎月の生徒情報交換会により多様な生徒の実態を全職員で共有できた。 ・ SC面談を繰り返し、SSWと連携しながら個々の課題に対応したことで長期の不登校が減少し、出席率が向上した。
	教職員の資質向上	・ 校内研修の充実	・ 分掌部の組織的・機動的取組の再構築	・ 分掌部会の開催と計画的な研修の実施	B	・ 分掌部会は計画的に実施したが、校内研修はコロナの影響もあり実施することができなかった。
	業務改善	・ 校務の効率化	・ 分掌部間の協力・協働体制の構築	・ 分掌部間で情報共有した学校行事の実施 ・ 講演の日程調整によるLHRの時間確保	B	・ 分掌部間や教科との連携でオープンスクール、校外体験学習等の行事の効率化や成果が上がった。 ・ 担任裁量のLHRの時間確保が少なく、面談や進路指導の時間が不足した。
学力向上	学校生活への意欲向上	・ 出席率の向上	・ 生徒の年間出席率平均85%以上	・ 毎月の情報交換会で、生徒の学校生活や家庭環境の状況を全職員で共有 ・ 生徒へ授業計画や行事予定表を掲示	A	・ 情報交換会での把握を実施し、担任を中心に欠席の多い生徒への対応を行った。 ・ 生徒ロッカーの横に授業予定や教務に関わる行事の詳細な情報を掲示するとともに、クラスルーム内に通常の時割割と、各定期考査の時間割を掲示した。 ・ 全体の出席率は、94.9%であった。

学習への意欲向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業の実践 ・授業時数の確保 ・基礎学力の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒による授業評価や全職員による研究授業を実施 ・行事予定をもとに、授業の偏りなく調整し、授業の予定時数を全職員へ周知 ・新入生考査やベーシックタイム確認テストの結果を分析し、全職員の共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価は学期ごとに行い、研究授業は参観者のアドバイスを共有できるようにした。ICT機器の活用を基本に据えたため試行錯誤中だが現在までに10人中8人が実施した。 ・授業数の偏りがないように調整し、授業予定数は各学期に全職員へ周知した。 ・学校評価アンケートでは「授業が分かる」割合が昨年より向上した。
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシックタイムの実施 ・夏期課外授業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語、数学、英語の課題を2か月程度取り組み課題をもとにしたテストを実施 ・夏季休業中に、教務部・進路指導部と連携し、課外を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に取り組む時間を2か月計30回以上設けた。夏期休業中では、基礎学力の定着を図る補強に取り組んだ。24人中8人が全問に取り組み、10人が20回以上取り組んだ。 ・進路指導部と連携して、学力が低い生徒を対象に、夏期講座の課題をベーシックタイムにして補強した。 ・生徒に応じた目標の明確化が難しく、達成度が図りにくく、夏期講座で学力定着の底上げにつながっているかが課題である。
キャリア教育・進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりに合わせた進路指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の把握 ・進路に関する資料等の提供 ・進路面談や課外、模試の実施 ・ハローワークや地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を学期ごとに行う ・企業見学の実施 ・進路報告会の実施 ・生徒の進路希望に合わせた面談、課外、模試等を適宜実施する ・必要に応じて、ハローワークや地域事業所、団体等に相談し、協力して進路指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を1か月おきに実施したことで、進路についての意識向上と希望の変化把握ができた。 ・職員室前に求人に関する資料を設置し、資料の提供を行った。 ・担任を中心に、進路面談を行い、生徒に応じて必要な進路指導を行った。 ・全日制と十分に連携できたことで、生徒の進路に対する支援も十分に行うことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・働くことに前向きな勤労観を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業状況調査の実施 ・アルバイト等の情報提供 ・インターンシップの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業状況調査を毎月実施し、結果を全職員に周知する ・ハローワークの求人情報を毎月生徒に案内する ・2年次のアルバイト未経験者を中心にインターンシップを実施し、年次末に報告会を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・就業状況調査を1か月おきに実施し、アルバイト等の状況を把握して、勤労に対する意識や意欲を大まかに知ることができた。 ・ハローワークが月2回発行する求人情報を教室に掲示し、資料の提供を行った。

生徒指導	自己管理能力の育成	・規範意識の向上	・遅刻の減少（昨年度1割減） ・SNS等の正しい使用方法の定着 ・交通事故と特別指導の未然防止	・毎月3日間の登校指導、挨拶運動の実施 ・生徒指導だよりによる啓発 ・各種講演会の実施	B	・1月末時点で、遅刻は昨年度とあまり変化なく（昨年度比-2件）、交通事故1件特別指導2件であった。 ・担任、保護者と連携し、継続した指導を行うことができた。
	豊かな人間形成	・コミュニケーション能力の向上	・自ら積極的に挨拶することができる。 ・お互いに共感し、理解し合うことができる。	・毎月3日間の登校指導、挨拶運動の実施 ・年2回のSSTの実施	A	・生徒同士のトラブル等は昨年度より少なかった。 ・SCやSSWと連携することで、多方面で生徒を支援することができた。
人権教育の推進	人権教育推進体制の確立	・教職員の実践力向上	・全職員に対する研修の充実	・実践力のある人権レポートの各自研修と作成	A	・生徒への言葉遣いなど、人権を意識した授業の工夫がみられた。 ・人権レポートを全員に作成してもらうことで人権意識の向上につながり、その後の研修に活かすことができた。
	人権意識向上	・人権教育内容の精選	・3・4年間を見通した人権教育計画	・3、4年間の継続した人権問題への積極的な取組の推進	B	・1年次では同和問題の基本を、2、3年次では様々な人権課題を、4年次では「言わない・書かない・提出しない」取組を行った。
	命を大切にすることを育む指導	・自他の命を大切にすることを育む	・仲間づくりの推進 ・自己肯定感や自尊感情の向上	・自己肯定感や自尊感情を高めるためのLHRを活用した授業の実践	B	・学期ごとに、担任による人権問題をテーマにした授業、自己肯定感や仲間意識を高めるためのゲームや講話等を行った。
いじめの防止等	いじめの防止等	・いじめについての認識と理解	・自他の人格を尊重する態度の育成 ・心の通う人間関係を構築する態度を養う ・いじめゼロ	・安心して生活できる集団生活のルールの確立 ・SST・情報安全教育・人権教育の実施 ・あらゆる機会をとらえいじめについて考える場面の設定	A	・アンケートの結果、約9割の生徒がいじめや差別を許さないことや友人を大切にすることを意識している。 ・今年度いじめの認知件数は0件であった。 ・SSTや人権教育、授業などあらゆる教育活動の中で、自他を尊重する態度について指導を行うことができた。
	いじめの実態把握	・いじめの認知 ・早期発見、解決に向けた取組	・いじめの早期発見と対応 ・いじめの解決 ・いじめに対する学校と家庭の連携・協力	・学期ごとのアンケートを実施と検証 ・全職員での情報共有 ・面談週間の実施 ・いじめ防止等対策委員会の開催 ・いじめ匿名通報アプリの導入	A	・学期毎にアンケートを行った結果をまとめ、全職員で共通理解を図った。 ・生徒のわずかな変化にも気づくことができ、早期対応につながっている。 ・いじめ匿名通報アプリからの通報も0件であった。

地域連携 (コミュニティスクール等)	学校・保護者・地域・各種行政機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合型コミュニティ・スクールとしての地域連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営、教育活動課程の承認 ・ スクールミッションの承認 ・ 地域の課題への取組による地域活性化 ・ 避難所運営マニュアルの確認・改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会の開催(年3回)による連携体制確立 ・ 地域の就労先との連携 ・ 安全安心メールを使った連絡体制の強化 ・ 適時の防災教育の実践 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営協議会において、地域の有識者の方々から、地震や水害等のシミュレーションを提示され、災害時の情報を共有できた。生徒にも防災避難訓練で周知できた。 ・ 保護者へは安心安全メール、学校通信「誠実」、担任から連絡を通じて、災害対応や防災教育の情報発信等を行うことができた。
	開かれた学校作り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定時制高校の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業をととして生徒の真摯な姿勢を伝える。 ・ 学校ホームページによる定時制の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ くまもと教育の日における公開授業の充実 ・ オープンキャンパスの早期実施 ・ ホームページを見やすく分りやすく改善。ブログ更新。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公開授業とオープンキャンパスは内容をリニューアルし、特に中学校関係者の方々から好評を得た。 ・ ホームページのブログ更新で定時制の魅力は十分に発信できた。見やすさについては改善中である。
健康教育	基本的な生活習慣の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣を啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マスクの着用、消毒の徹底、手洗いうがい、偏食のない食生活を送り、6時間以上の睡眠を促し免疫力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三密の回避、健康観察や内科検診時の問診票で把握 ・ 食育を通じて、自己管理能力の育成 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい生活様式である三密の回避、マスクの着用、消毒・手洗い・うがいの徹底はできた。 ・ 保健室だよりの発行による食育の啓発はできたが、実践である調理実習等はできなかった。
学校行事等の充実	学校行事の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の主体的な活動を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事の満足度を5段階中4以上 ・ 生徒の自己肯定感や自律心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育大会や文化祭、校外体験学習等の行事で、コミュニケーション能力を向上させ、達成感や充実感を味わわせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートの結果学校行事を楽しみにしている生徒は62%であった。しかし、出席率は90%を超えており、高い数値であった。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A と連携した行事の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A 共催行事の充実 ・ P T A 役員会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染予防対策を踏まえた校外体験学習の遂行 ・ P T A 役員者のコミュニケーションの綿密に行う 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染予防対策を十分に行い宇城地区での校外体験学習を実施した。 ・ 早期の新役員決めと体育祭後のクリスマスプレゼント贈呈で役員の方々に手厚い支援をいただいた。
	生徒会行事と部活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動の充実(定通文化大会を含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会活動の活性化による、学校行事の充実 ・ 自ら進んで参加する意欲的な生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーシップの育成と積極的に取り組める体制の構築 ・ 生徒一人ひとりが活躍できる学校行事の企画 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で学校行事の縮小や変更があったが、生徒自身が内容を考え、主体的に取り組む、充実した学校行事を行うことができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動しやすい環境の整備(用具等) ・ 通年の活動ができる指導・助言 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染予防に努めながら、通年の活動を行うことができた。参加者がさらに増えるように呼びかけていきたい。 	

4 学校関係者評価

- (1) 昼夜を問わず生徒の人格形成、自己実現への道を切り拓き後押しされている学校長をはじめ教職員の献身的かつ教育者としての矜持に対して敬意を表する。
- (2) 生徒の様々なニーズに対して、教職員一人一人が寄り添い、きめ細やかな指導の成果が出席率の向上、遅刻者の減少、いじめ認知件数0に現れている。
- (3) 公開授業では、落ち着いた雰囲気で行われており、先生方の熱意も感じられた。授業で用いられた教材も良く研究されていた。また、不登校経験や学び直しの生徒が「ここで学びたい」と真剣な表情で授業に取り組む姿勢が印象的であった。
- (4) コロナ禍で仕事や収入が減り不安な生徒へ寄り添ってケアをして欲しい。また、PTAとしても支援に取り組みたい。
- (5) 本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため相次いで学校行事が中止となったが、次年度は新型コロナウイルスと向き合いながらの学校行事の実施を望む。

5 総合評価

総括的に見て、本年度の学校目標は概ね達成された。

- (1) 設定目標22項目のうち昨年度よりA評価が2つ増え、A評価からB評価へ下げた項目が1つであった。本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため休校、学校行事の中止はあったものの、少人数という定時制の特徴が授業活動に大きな影響を受けなかった。
- (2) 本年度から評価項目に加えた「業務改善」は、校務分掌間の連携強化による業務の効率化LHRの担任裁量の時間確保等に取り組んだ。超過勤務の月平均が10時間52分と昨年度より5時間33分減少したのでA評価とした。
- (3) 成果が現れた「いじめ防止等」の項目では、いじめを認知件数が0件（昨年度1件）であったので、昨年度のA評価からB評価にした。心のアンケートの他に学校独自のアンケートを実施したり、生徒会によるSSTやSCによる講演、弁護士を招聘した「いじめ予防」の職員研修等の取組の成果が出ている。
- (4) 評価項目の「学校行事等の充実」の「部活動の充実」は生徒・職員の学校アンケートの結果でも昨年度より「十分達成」の回答率が減少しており、休校、大会の中止により活動日数が減少したことから、A評価からB評価へ下げた。

6 次年度への課題・改善方策

各項目の課題を再整理して、課題の要因を明確にして学校全体で組織的に取り組む。

- (1) 学校への出席率は向上しているが、家庭学習の習慣及び基礎学力の定着が課題である。個別面談による学業と仕事の両立の精神的支援、基礎学力診断テストの結果を活かした授業や個別指導で基礎学力を補う取り組みを行う。
- (2) 昨年度は新型コロナウイルス感染症対策による学校行事の中止や延期が相次いだ。本年度も感染防止を考慮した学校行事の実施、働き方改革を考慮した学校行事の精選に取り組む。
- (3) 生徒の特性や多様なニーズに応じた進路保障の充実が課題である。学校の実情に応じた進路講話の実施、就業未経験者へのインターンシップの実施、保護者、SSWやジョブサポートとの連携による就職支援に取り組む。